

鴨川版CCRC構想（鴨川プラチナタウン構想）（案）概要版

目的

東京圏を始めとする地域の高齢者が、自らの希望に応じて鴨川市に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような環境づくりを進めること。また、誰もが快適で過ごしやすい住環境と新たな社会システムを創出するとともに、健康福祉産業の振興を図り、ひいては雇用の創出と若年者の流入、地域経済の振興にも資するため、「高いQOL（※）を実現する社会」、すなわちプラチナタウンの実現を目指す。（※注：Quality of Life（生活の質））

- 対象区域：鴨川市全域を対象
- 計画期間：平成33年度まで

基本コンセプト

- 緑豊かで人々の営みが継続している里山と、宿泊施設をはじめとした観光機能が集積し、都心から程近く、豊かな眺望とマリンスポーツの場でもある海辺は、鴨川市が他に誇るべき貴重な地域資源。
- こうした地域にあって、官民の医療機関、健康づくり等の人材育成機関が立地し、高度医療から健康づくりまでを担うことができる地域は貴重な存在。
- こうした地域資源を存分に活用し、田舎暮らしを志向する方、鴨川に新たな活躍の場を求める方、ゆとりある暮らしを求める方などに暮らしと活躍の場を提供し、分野や主体間の連携を図り、地域の活性化、移住者が暮らしやすいまちづくり、地域の方々が生きがいを持って、いつまでも安心して快適に暮らすことができる地域づくりを目指す。

「鴨川の自然環境と医療の充実を活かした
プラチナタウンの実現」

～良質な日常を過ごし、健康で元気に活躍できる多世代交流型の地域づくり～



魚見塚展望台から見た市街地と海岸線



日本の棚田百選「大山千枚田」と稲刈り風景



充実した医療福祉環境



各種スポーツに対応した総合運動施設

鴨川版
CCRC

取組みの方向性

(1) 地域の暮らしを支える健康づくり・コミュニティづくりの推進

①医療介護機能の集積を活かした安心の確保と健康づくりの充実

- ✓医療福祉産業の集積を活かし、元気なうちから介護が必要になっても、地域で暮らせる環境を確保。
- ✓市内大学等における健康づくり等の研究、活動と連携、健康づくりに寄与する取組みを推進。
- ✓これらのサービスの担い手となる人材育成、持続可能なサービス提供に寄与。

②運動や就労、文化的活動などの場や体制づくりによるコミュニティの形成

- ✓総合運動施設の利用や農業、地域での就労、医療機関等が提供する健康プログラム、アクティビティや住民活動への参加により健康環境を確保。
- ✓活動への参加による地域のコミュニティづくりを図り、独居の方でも食事や趣味で交流できる場をつくる。
- ✓移住から活動、住まい、生活の相談などのワンストップ対応体制を構築、プラチナタウンを実現。

(3) その他の施策との連携

- 子育て支援、高齢者の移動のための交通アクセスの確保などと連携した生活環境の確保。

(2) 豊かな自然環境、観光資源を活かした移住促進による地域の活性化

③海辺の魅力を活かした移住モデル

- ✓良質な日常を送ることができる海辺、まちなか再生を進め、東京圏等の移住者の呼び込み、別荘所有者等の定住等に取り組む。
- ✓海の眺望、マリンスポーツや温泉等に魅力を感じる二地域居住者、リタイア前後の元気なうちに都市部から移住する方、市内でも利便性の高い地域への住み替えを希望する方に、既存ストックを活用した住まいや交流拠点を確保。
- ✓ヘルスツーリズム、食、観光団体や大学、地域の活動団体等と連携した交流活動、観光産業等の就労や地域づくりへの参加などの活躍の場・体制を充実。

④里山の魅力を活かした移住モデル

- ✓里山の緑に囲まれ、農作業、自給自足的な生活を志向する多世代が移住している。
- ✓集落コミュニティを尊重、高齢者の生活支援と農業・観光・地域活動の担い手となる多世代の共生を目指す。
- ✓共助の仕組みの維持向上、田舎暮らしを志向する方々が就農や6次産業化、地域活動や文化活動等への参加を通じた活躍を実現する拠点づくり、就農支援等を図る。

地域の暮らしの基盤を支える取組み

(1) 活躍・交流の場を構築

- ✓ ふるさと回帰支援センターを中心に各種団体等と連携した就労・ボランティアの斡旋
- ✓ 大山千枚田等の農業体験・就農、みんなの里や道の駅鴨川オーシャンパーク等での加工・販売、サテライトオフィスの確保、文化・スポーツ活動の情報提供などに加え、各地域での受入態勢の充実などを通じてコミュニティ形成を支援
- ✓ 地域の日常的な交流の場となる図書館や文化施設、公民館、公園等の充実
- ✓ 移住者や地域の高齢者などが就労、ボランティア活動等に取り組みやすくなるよう、大学や地域団体等と連携した学びの場を構築
- ✓ 幅広い年代の親睦・交流を支援

(2) 健康づくりの場や健康づくりの活動を充実

- ✓ 行政、大学、活動団体等が連携し、ウォーキング、健康体操、健康講座、地元の食材を活用した健康食やレシピの提供を通じた健康づくり、生産・収穫・食までを一貫して学べる農業セミナーの実施、食育等を推進
- ✓ 総合運動施設に多目的施設を整備し、全市を対象とした健康をテーマにした運動・交流の拠点を構築するほか、里山や海辺におけるウォーキングコース、公園等といった環境の充実化
- ✓ 健康マイレージ等の健康づくりのインセンティブの提供、看護師の修学資金援助等を含む医療介護の担い手づくりや健康に関する講座や情報提供など、健康を支える体制の充実化
- ✓ 地域包括ケアと連動した介護予防・日常生活支援総合事業

(3) 安心して住み続けられる住まいの確保

- ✓ 行政と不動産業者、金融機関が連携し、空き家の紹介、相談、墓地の確保、住宅取得・耐震改修を伴うリフォーム等への助成、ローンの提供等の支援体制を構築
- ✓ 空き公共施設等を活用した拠点整備、高齢者向け住まいの整備の促進、地域密着型施設の整備推進を通じて安心して暮らせる住まいを提供
- ✓ 公共施設、交流拠点等の運営に対する民間事業者のノウハウ活用拡大

(4) 生活の困りごとの相談・見守り体制の充実

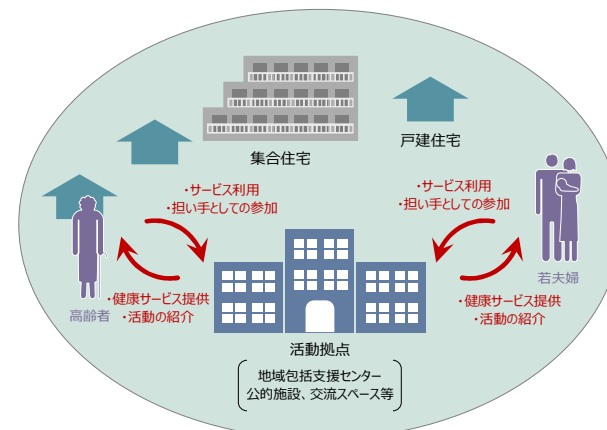
- ✓ 地域での見守り体制を構築、地域包括支援センター・福祉総合相談センターでの在宅医療介護相談窓口で日常生活の困りごとや医療介護への不安の相談にも対応

拠点整備の考え方

■ビレッジの考え方

市内の日常生活圏を念頭に、プラチナタウンを形成する市内4つのエリアをビレッジと呼び、それぞれに地域包括ケアの拠点と連動しながら、移住者や市民が利用可能な交流・相談拠点を設け、地域の交流促進、健康づくり・生きがいづくりに資する活動の実施、生活相談やボランティア活動の紹介、見守り等のサービス提供を図る。

これらとあわせて、新たな高齢者向けの住まいの整備や空き家の利活用を進め、市内全域においてそれぞれの地域の特性に応じたコミュニティ形成を進めていく。



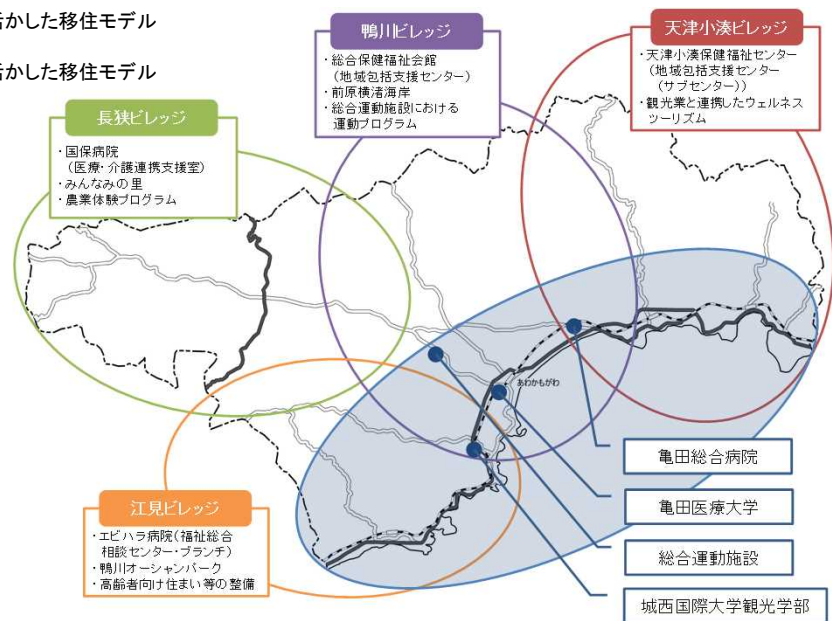
■エリアの考え方

鴨川ビレッジ	天津小湊ビレッジ	長狭ビレッジ	江見ビレッジ
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海辺のまちづくりと連携した前原横渚海岸等における良質な日常を送ることができる拠点の再生 ➢ 地域包括支援センターを核に、総合運動施設の多目的施設の整備とあわせた運動プログラムの提供、就農等とあわせた里山モデルの実現 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域包括支援センター(サブセンター)と連携した海辺の暮らしモデルの実現 ➢ 観光業と連携したウェルネスツーリズムの推進や高齢者の活躍の場の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 国保病院、みんなの里を中心とした交流の場と生活支援サービスの提供を通じた里山の拠点形成 ➢ 就農支援、帰農者セミナー、農家民泊、棚田オーナー等への農業体験プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ エビハラ病院、道の駅鴨川オーシャンパーク等と連携した活躍の場の構築 ➢ 空き公共施設等を活用した高齢者向け住まい等の整備

移住促進に向けた取組み

- ✓ ふるさと回帰支援センター等を通じた移住相談のワンストップ窓口の構築
- ✓ 農家民泊、空き家等を活用したお試し移住のツアー化
- ✓ 観光客やスポーツ等での来訪者に対する鴨川の魅力、移住PR
- ✓ イベントや広域観光の取組みとあわせた東京等における移住情報の提供
- ✓ 高齢者向けの旅行商品と連動したウェルネスツーリズムツアーの充実
- ✓ 空き家バンク等による情報提供の強化、仲介の体制充実
- ✓ 海辺や里山の魅力づくりを進め、より一層移住しやすくなる鴨川の魅力を磨き上げ 等

○ : 海辺の魅力を活かした移住モデル
 全域 : 里山の魅力を活かした移住モデル



運営体制の構築に向けて

移住・就労・交流・生活支援コーディネート等、多様な関係者が情報共有を図る場の構築、事業の企画・運営、協議調整、フォローアップを行う。

